

東京都教育委員会では17年度の重点事業として、「地域教育プラットフォームモデル事業」を施策化しました。この事業は、地域の社会資源が有する教育力を、学校内外における子どもたちの教育活動に効果的に導入することを通じて、学校・家庭・地域の教育力を活性化させるための仕組みをつくることを目指しています。

そのモデル地区の一つに世田谷区が選ばれ、コミュニティづくりを大切にする世田谷区らしさを生かした地域教育プラットフォームづくりに取り組み始めています。この中で最も重要になってくるのが、コーディネーターの役割です。その担い手として大きな注目を浴びているのが「世田谷まなびばネット」です。

まなびばネットは、生活者の視点を生かしながら、子ども・若者の育成や地域コミュニティの活性化に取り組むことを目指し、2003年に発足したNPOです。メンバーの多くがPTA活動の経験者であるという強みを生かし、様々な教育のコーディネート活動をこれまでも展開してきました。今回は、世田谷まなびばネットの取組について紹介します。

学校支援 コーディネーター の育成



世田谷区では、17年度は、地域教育基盤（プラットフォーム）整備に向けたパイロットエリアを2地区指定し、そこで試行に向けての条件整備を進めています。具体的には、中学校区程度のエリア内で学校のニーズに応じ、様々な分野で活躍している外部の人材を活用し、授業プログラムを提供する役割を担う「学校支援コーディネーター」のテスト配置に取り組みます。まなびばネットは、この学校支援コーディネーターのテスト配置の人選から研修、検証・評価などを区教育委員会に提案し、協議しながら実施する一翼を担っています。

8月24日と26日には、「学校支援コーディネーターに必要な知識・スキルを身につける」というテーマで研修会が開かれました。研修プログラムは、区教育長による「世田谷区教育ビジョン」についての講義や教育指導課長による世田谷区立小・中学校の現状など授業プランづくりに関するシミュレーション実習まで、単なる知識の習得ではなく、実践的力量的の習得を目指した構成となっています。

今年度のテスト配置や18年度試行を検証・評価することが、今後の本格実施に向けて重要となっています。

まなびばネットが、コーディネーターとしてかかわった活動の一つに、小学校と大学が連携した取組があります。

区立桜小学校では今年、どのようなクラブ活動をやりたいかというアンケートを子どもたちからとったところ、ピオトープをつくりたいという意見が多かったので、学校の屋上にピオトープを設置し、「かんきょうクラブ」を設立しました。

ピオトープづくりには、専門的な知識が必要となるので、桜小学校とまなびばネットが、東京農業大学に協力依頼を行いました。その依頼を東京農業大学は快諾し、造園学科の学生たちをクラブ活動の時間のアドバイザーとして派遣してくれています。学生のアドバイザーたちは、子どもたちの相談に親身になって対応してくれています。

子どもたちは、大学生たちが熱心にピオトープづくりに取り組む姿を目の当たりにして、大きな刺激を受けています。子どもたちが異なった世代の人たちとふれあうことによって、コミュニケーション能力が磨かれたり、これらの活動を通して、何事にも意欲的に取り組む精神を育んでいくことが期待されています。

区立桜小学校における 大学連携 プログラムの企画



お問い合わせ先

〒158-0097 東京都世田谷区用賀4-3-13

■ NPO法人 世田谷まなびばネット ■

TEL/FAX 03-3700-2810

(水・金11:00~16:00)

e-mail: setagaya_m_net@yahoo.co.jp

まなびばネットのその他の活動

食と農の博物館



お魚博士になって魚拓づくりにも挑戦！

埋蔵文化財発掘調査隊



私たちの地域に縄文式土器発見！